

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の設置									
設置者	ガッコウホウジン ミヤザキガクエン 学校法人 宮崎学園									
大学の名称	ミヤザキコクサイダイガク 宮崎国際大学 (Miyazaki International College)									
大学本部の位置	宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地									
大学の目的	本学は、学校法人宮崎学園の建学の精神「礼節・勤労」を教育理念とし、リベラル・アーツに基盤をおいた高等教育によって国際社会に貢献する人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	教育学部は、大学の目的に沿って、高い教養に基づく教育の専門的技術を備えた人材の養成を目的とする。児童教育学科は、学部の目的に沿って、小学校教諭、幼稚園教諭および保育士を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	教育学部 [School of Education]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地		
	児童教育学科 [Department of Childhood Education]	4	50	-	200	学士 (教育学)	平成26年4月 第1年次			
	計		50	-	200					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	宮崎学園短期大学 初等教育科(廃止) (△50) *平成26年4月学生募集停止 音楽科(廃止) (△30) *平成26年4月学生募集停止 人間文化学科(廃止) (△90) *平成26年4月学生募集停止 現代ビジネス科(新設) (50) (平成25年5月届出設置)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	教育学部 児童教育学科	56 科目	60 科目	10 科目	126 科目	128単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	教育学部 児童教育学科	5人 (4)	6人 (4)	3人 (3)	1人 (1)	15人 (12)	0人 (0)	20人 (10)	
		計	5人 (4)	6人 (4)	3人 (3)	1人 (1)	15人 (12)	0 (0)	20 (10)	
	既設分	国際教養学部 比較文化学科	10 (10)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	6 (6)	
		計	10 (10)	15 (15)	5 (5)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	6 (6)	
合計		15 (14)	21 (19)	8 (8)	1人 (1)	45 (42)	0 (0)	26 (16)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		13人 (13)		0人 (0)		13人 (13)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		3 (3)		3 (3)		6 (6)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		16 (16)		3 (3)		19 (19)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	宮崎学園短期大学 と共用			
	校 舎 敷 地	0 m <sup>2</sup>	21,074.89 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	21,074.89 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	0 m <sup>2</sup>	26,263.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	26,263.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	0 m <sup>2</sup>	47,337.89 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	47,337.89 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	816.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	816.00 m <sup>2</sup>				
合 計	0 m <sup>2</sup>	48,153.89 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	48,153.89 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	宮崎学園短期大学 と共用			
		396.4 m <sup>2</sup> (396.4 m <sup>2</sup> )	13,874.95 m <sup>2</sup> (13,874.95 m <sup>2</sup> )	5,847.23 m <sup>2</sup> (5,847.23 m <sup>2</sup> )	20,118.58 m <sup>2</sup> (20,118.58 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	25 室	76 室	5 室	4 室 (補助職員0人)	2 室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請学部全体			
		教育学部		15 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	教育学部	31,587 [916] (29,588 [333])	45 [6] ( 45 [6])	0 [360] ( 0 [360])	1,027 (987)	1946 (1,324)	16 (16)		
	計	31,587 [916] (29,588 [333])	45 [6] ( 45 [6])	0 [360] ( 0 [360])	1,027 (987)	1946 (1,324)	16 (16)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
		2,812.13 m <sup>2</sup>		272		160,000 冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,138.00 m <sup>2</sup>		テニスコート3面 —					
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円		
		共同研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円		
		図書購入費	8,002千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円		
	設備購入費	22,682千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,200千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円					
	1,300千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び事業収入を充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	宮崎国際大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	国際教養学部 比較文化学科	4	100	3年次 10	420	学士 (比較文化学)	0.69	平成6年度	宮崎県宮崎市清武 町加納丙1405番地
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	宮崎学園短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	保育科	2	210	-	420	短期大学士 (保育学)	1.02	昭和40年度	宮崎県宮崎市清武 町加納丙1415番地  ※平成26年度より 学生募集停止(初等 教育科, 音楽科, 人間文化学科)
	初等教育科	2	50	-	100	短期大学士 (初等教育学)	0.46	昭和42年度	
	音楽科	2	30	-	60	短期大学士 (音楽学)	0.38	昭和45年度	
	人間文化学科	2	90	-	180	短期大学士 (人間文化学)	0.53	平成15年度	
	専攻科(福祉専攻)	1	50	-	50		0.80	平成10年度	
専攻科(音楽療法専攻)	1	10	-	10		0.45	平成14年度		
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要

(教育学部 児童教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養基礎科目 教養教育分野科目	忍ヶ丘教養	忍ヶ丘教養Ⅰ	1前	2			○			2	1		1			オムニバス	
		忍ヶ丘教養Ⅱ	1後	2			○			2	1		1			オムニバス	
		忍ヶ丘教養Ⅲ	2前	2			○				4					オムニバス	
		忍ヶ丘教養Ⅳ	2後	2			○				4					共同	
	人文・芸術系	文学	1後		2			○			1						
		人間と文化	1前		2			○			1						兼1
		倫理学	1後		2			○				1					兼1
		心理学概論	1前		2			○									兼1
		日本語表現	1前		2			○									兼1
		音楽と文化	1前		2			○									
	国際・社会系	国際社会論	3後		2			○				1					
		現代社会と歴史	2前		2			○				1					
		日本国憲法	1後	2				○									兼1
	自然科学系	数学と生活	1後		2			○						1			
		環境と科学	1後		2			○				1					
		生命と科学	1後		2			○									
		食の科学	3前		2			○				1					兼1
		情報処理Ⅰ	1前	2					○								
		情報処理Ⅱ	2前		2				○			1		1			共同
	外国語系	英語Ⅰ	1前	2				○									兼1
英語Ⅱ		2前	2				○									兼1	
英語コミュニケーションⅠ		1後	1					○				1					
英語コミュニケーションⅡ		2後	1					○				1					
英語コミュニケーションⅢ		3前	1	1				○				1					
Special Studies in EnglishⅠ		3後	1					○								他学部	
Special Studies in EnglishⅡ	4前	1					○								他学部		
健康・体育系	健康の科学	1後	1				○				1						
	体育実技	1前	1					○								兼1	
	子どもと食育	3後		2			○				1						
小計(29科目)			—	18	33	0	—			5	5	1	1	0	兼7	—	
専門教育分野科目	専門基礎科目	教職概論	1後	2			○									兼1	
		教育原理	1前	2			○				1						
		教育心理学	1後	2			○					1					
		教育制度論	3後	2			○					1					
		保育原理	1前		2			○									兼1
		児童家庭福祉	3後		2			○					1				
		社会福祉	3前		2			○					1				
		相談援助	4前		1				○					1			
		社会的養護	3前		2			○						1			兼1
		保育者論	1後		2			○						1			
	小計(10科目)			—	8	11	0	—			1	1	1			兼3	—
専門科目	対象の理解	保育の心理学Ⅰ	2前		2		○					1					
		保育の心理学Ⅱ	2後		1			○				1					
		子どもの保健Ⅰ	3通		4			○				1					
		子どもの保健Ⅱ	3後		1				○			1					
		子どもの食と栄養	1後		2				○								
		家庭支援論	4前		2			○					1				
		臨床心理学	2後		2			○									兼1
	教科・基礎技能	国語(書写を含む。)	1前	2				○				1					
社会		1後		2			○					1					
算数		1前	2				○						1				



専 門 教 育 分 科 目	保育の表現技術	音楽と遊び 造形表現演習 幼児体育演習	1後 3後 3後	2 1 1				○ ○ ○		1 1						兼1			
	小計 (72科目)		—	8	123	0	—			4	6	2	1	0		兼13	—		
	実 習	教育実習指導		3前	1				○			1							
		教育実習 I (小学校)		3後	4				○			1							
		教育実習 I (幼稚園)		3後	2				○			1							
		教育実習 II (幼稚園)		3後	2				○		1								
		保育実習指導 I		2後	2				○	1									
		保育実習 I a		2後	2							1							
		保育実習 I b		3前	2								1						
		保育実習指導 II		4前	1				○			1							
		保育実習 II		4前	2					○		1							
		保育実習指導 III		4前	1					○		1							
		保育実習 III		4前	2					○		1							
実践演習	教職実践演習(幼・小)		4後	2				○		2							共同		
	保育実践演習		4後	2				○		2							共同		
小計(14科目)			—	0	26	0	—			3	4	1	0	0	0		—		
卒業論文	卒業論文		4通	4				○		5	6	1	0				共同		
小計(1科目)			—	4	0	0	—			5	6	1	0	0	0		—		
合計 (126科目)				38	193	0	—			5	6	3	1	0		兼22	—		
学位又は称号		学士 (教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係													
卒業要件及び履修方法									授業期間等										
教養教育科目 28単位 人文・芸術系から2単位選択必修 自然科学系は情報処理Ⅰ・Ⅱを除く4科目から2単位選択必修									1学年の学期区分			2学期							
専門科目 96単位 小学校教諭一種免許状取得においては下記の通り履修する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会・理科・家庭から2単位選択必修</li> <li>・ 生活・図画工作・体育から2単位選択必修</li> <li>・ 各教科教育法Ⅰ (生活科教育法・家庭科教育法を含む。) は必修</li> <li>・ 国語科教育法Ⅱ・社会科教育法Ⅱ・算数科教育法Ⅱ・理科教育法Ⅱから2単位選択必修</li> <li>・ 国語科教育法Ⅲ・社会科教育法Ⅲ・算数科教育法Ⅲ・理科教育法Ⅲから2単位選択必修</li> <li>・ 音楽科教育法Ⅱ・図画工作科教育法Ⅱ・体育科教育法Ⅱから2単位選択必修</li> </ul>									1学期の授業期間			15週							
卒業論文 4単位									1時限の授業時間			90分							
合計 128単位以上(履修科目の登録の上限:48単位(年間))																			

授 業 科 目 の 概 要			
教育学部児童教育学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育分野	教養基礎科目	<p>授業の構成は大きく3つに分かれる。まず、今後4年間の学びの場となる宮崎国際大学教育学部の概要や受講規則、大学生として期待される行動、大学における教育資源の活用方法について学ぶ。次に、ノートの取り方やテキストの読み方、レポートの書き方など、高校までとは異なり、大学の授業を受講する上で必要になる基本的な学習方法・学習スキルの獲得を目指した初年次教育の内容を学習する。最後に、大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要な応用的な学習スキル(英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など)の獲得と課題演習を通して実際に活用できるようになることを目指す。授業形態は講義とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 田中幸子／3回)</p> <p>今後4年間の学びの場となる宮崎国際大学教育学部の概要や受講規則、大学生として期待される行動、大学における教育資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>(③ 菅邦男／4回)</p> <p>ノートの取り方やテキストの読み方、レポートの書き方など、高校までとは異なり、大学の授業を受講する上で必要になる基本的な学習方法・学習スキルの獲得を目指した初年次教育の内容を学習する。</p> <p>(⑬ 渡邊耕二／4回)</p> <p>大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要な学術文献の理解と活用に関する応用的な事項(英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など)について学ぶ。</p> <p>(⑥ 野崎秀正／4回)</p> <p>第1回から第11回までの授業で修得した大学における学習に対する考え方や学習スキルを実際に活用できるようになることを目指し、グループに分かれて設定された教育問題についての課題演習を行う。</p>	オムニバス方式
	教養基礎科目	<p>授業の構成は大きく3つに分かれる。まず、コミュニケーションの目的について学び、上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術を学ぶ。次に、グループに分かれてテーマに沿ったディスカッションの練習を行い、他者と言葉のやり取りする中で他者の意見を聞く技術や、自分の考えを主張する技術を実演を通して学ぶ。最後に、プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。授業形態は講義とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 田中幸子／3回)</p> <p>コミュニケーションの目的や課題について学び、コミュニケーションとは何かを理解する。</p> <p>(⑥ 野崎秀正／4回)</p> <p>第一印象の影響や上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術の修得、さらには異年齢の相手との関わり方など実際の場面において効果的なコミュニケーションの方法を具体的な事例から学ぶ。</p> <p>(⑬ 渡邊耕二／4回)</p> <p>グループに分かれてテーマに沿ったディスカッションの練習を行い、他者と言葉のやり取りする中で他者の意見を聞く技術や、自分の考えを主張する技術を実演を通して学ぶ。</p> <p>(③ 菅邦男／4回)</p> <p>プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p>	オムニバス方式

教養教育分野	教養基礎科目	忍ヶ丘教養Ⅲ	<p>授業の構成は大きく4つに分かれる。まず、宮崎県の歴史、地理、郷土の偉人の思想や生涯を学ぶことで、他の地域との比較から地域の特徴を学ぶ。次に、宮崎県出身の偉人の思想と生涯について学ぶことで、自身の生きる指針を定め、地域に貢献することの意義を理解する。さらに、宮崎県の教育や福祉の現状や課題について行政機関や学校現場に所属する講師の講話を通して地域の教育についての自分なりの課題を発見し、自身のキャリアデザインを構築する手がかりとする。最後に、国際的な教育問題についてその問題と解決策について認識する。授業形態は講義とし、講義は外部講師による。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)  (⑧ 守川美輪／4回)  地域に根ざした教員とはどのような教員かを理解する。また、宮崎県の歴史と文化、地理と風土、経済と産業を学ぶことで、他の地域との比較から地域の特徴を学ぶ。  (⑦ 黒木國泰／3回)  宮崎県出身の偉人の思想と生涯について学ぶことで、自身の生きる指針を定め、地域に貢献することの意義を理解する。  (⑤ 嶋政弘／5回)  宮崎県の教育や福祉の現状や課題について考える。さらに、行政機関や学校・保育現場に所属する方々の講話を通して地域の教育についての自分なりの課題を発見し、自身のキャリアデザインを構築する。  (⑨ 宮本直樹／3回)  各国の歴史的背景や教育の現状から国際化社会と教育の関係を学び、我が国の教育の現状を相対的に理解する。また、国際社会に貢献できる教員としてのキャリアデザインについて考える。</p>	オムニバス方式
		忍ヶ丘教養Ⅳ	<p>授業の構成は大きく4つに分かれる。まず、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅲで学んだことの中から自分が興味を持ったことを選択し、これを他者に如何に伝えるか、資料収集・整理・口頭発表・質疑応答を行うための方法・技術を学ぶ。本講義では、特に視聴覚機器を用いたコミュニケーション技術について修得する。そのため、パーソナルコンピューターを用いて、幾つかのソフト(ワープロ、エクセルやパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトなど)を使用する。次いで、口頭発表する内容を決められた文字数で文章として取りまとめ、次に液晶プロジェクターを用いて、他者に如何に分かり易く口頭発表・プレゼンテーションするかについて必要な技術を修得し、最後に決められた時間内に口頭発表する技術と発表後の質疑応答に対する対処法を修得する。授業形態は講義とする。</p> <p>(⑤ 嶋政弘、⑦ 黒木國泰、⑧ 守川美輪、⑨ 宮本直樹)</p>	共同
	教養発展科目	文学	<p>文学の面白さ、意義について学習し、実感する。「文学の面白さとは何か」を、俳句・短歌(和歌)・詩・小説等を例に、講義する。またその発展として、親しみやすい現代俳句、近現代詩人(金子みすゞ、石垣りん、黒田三郎、茨木のり子など)の作品を取りあげ、共に読んでいく。作品に対して、自分自身の感想・考えを持ち、文学の面白さを実感できるようにする。また、他人の意見を聞き、自分の意見を自由に発表できるようにする。授業形態は講義とする。</p>	
		人間と文化	<p>人間の社会的存在という意味を、まず赤ちゃん学の成果を踏まえて理解させる。そして、言語の持つ意味、宗教の果たしてきた役割(とりわけルネサンスと宗教改革運動の歴史的意味)、哲学と近代科学の発展の意味を解説する。文化的発展と近代的「個人」の歴史的登場、近代(現代)社会のグローバル化と文化衝突の意味(多文化社会)での理解と共存の問題を解説する。最後に、身近な文化と人間理解という視点から、地域とエコミュージアム運動について、発祥の地フランスでの事例や日本での事例を紹介して理解を深めさせる。授業形態は講義とする。</p>	

教養教育分野 教養発展科目	倫理学	倫理的問題に関する自主的判断能力の育成をめざす。そのために、倫理学上のさまざまな主張を紹介し、それぞれの特徴と問題点を明らかにする。具体的には、「道徳的ジレンマ(自由と平等、忠と孝)」、「性善説と性悪説(ロックとホブズ、孟子と荀子)」、「黄金律と競争原理の矛盾」、「欲望と道徳の関係(禁欲主義と功利主義)」、「道徳と宗教(道徳を強化する宗教・道徳を超越する宗教)」、「道徳否定論(相対主義・ニヒリズム)」などの問題を取り上げて、学生たちの自主的思考を促す。授業形態は講義とする。	
	心理学概論	心理学概論の授業では、哲学を祖にして心理学が発生する流れからヴェントによる実験心理学の成立、行動主義や認知主義の隆盛など、心理学における心の考え方の大まかな歴史の変遷を学ぶ。また、発達心理学、臨床心理学、社会心理学のような現在確立している心理学の1分野がどのような歴史的・理論的背景を持って発展してきたのかを学ぶ。各回で学習する内容は、初歩的で入門的な内容とし、今後、専門課程において心理学関連の授業を学ぶ際に、できるだけスムーズに入っていけるように心理学の基本的な考え方の道筋をつけることを目的とする。授業形態は講義とする。	
	日本語表現	学生自身が興味・関心を持った日本語に関するテーマ(例:敬語、方言、「は」と「が」の違い等)について各学生が全員の前でプレゼンテーションを行ったあと日本語に関して話し合い、日本語の特色や用法等を理解する。また、社会事象に関するスピーチやグループ・ディスカッション等の音声表現と自らの生き方や社会のあり方を考える小論文作成等の文字表現の両方の実践的な学習をととして、表現力やコミュニケーション能力の向上を図る。授業形態は講義とする。	
	音楽と文化	音楽、演劇、美術、文化等のまさに文化の時代に生きている我々は「個性豊かな自我の確立」のため音楽は必要であり、芸術は人間が人生をよりよくするために存在する大切なものである。音楽に関する幅広い知識や教養を深めるため「知っておきたいクラシック音楽」に接触する機会を実際の鑑賞や演奏を通して学習を行う。授業形態は講義とする。	
	国際社会論	国境無きヒト、モノ、カネ、情報の移動とナショナリズム、ローカリズムの衝突を講義形式で考える。その際、めざましい発展を遂げつつあるアジアの現況を調べ、華僑研究の理論や実証研究の成果から学び、エスニシティ論を考える。その上で世界史の成立期、大航海時代の前史としての14世紀から今日に至るアジアの歴史を考え、東アジア世界(冊封一朝貢)システムを概観し、台湾問題、領土問題等の東アジアの諸問題への理解を図る。授業形態は講義とする。	
	現代社会と歴史	日本における家族と社会の歴史を、他の民族の社会・歴史と比較しながら史料に基づいて講義形式で考える。その際、歴史学のみならず人類学、考古学等の関連諸科学の研究成果を援用して、身近な事例を取り上げて考察し、日本人・日本の社会が母性原理が優位である事実を検証し、我々の生き方を考察することをめざす。授業形態は講義とする。	
	日本国憲法	高等学校の公民科での憲法学習を基礎に、民主政治の原理や民主政治における憲法の役割、憲法の性格について基本的理解の定着を図る。その上で、日本国憲法の性格、日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義についてその意義の理解を図り、具体的に憲法の条文を基に基本的人権や国会、内閣、裁判所、地方自治などに関する理解を確かなものにする。授業形態は、講義とする。	

教養教育分野 教養発展科目	数学と生活	<p>基本的な計算が身につけていけば、日常において数学的な知識は必要ないと思われがちである。しかし数学の持つ不思議な力によって、個人情報保護システムなどは高いセキュリティーを維持しているなど、現代社会において数学が果たす役割は決して小さくない。また数学は、他の学問分野と比べて、極めて長い歴史を持つ文化的な遺産と捉えることもできる。算数の授業を豊かにするためには、数学が持つ社会における役割や歴史に対する教養は不可欠である。今日の社会や歴史的な観点から数学に対する理解を深めていく。授業形態は講義とする。</p>	
	環境と科学	<p>私たち人間は地球上に存在・生活し、文化・文明を発展させてきた。しかし、一方で環境に過剰の負荷を与えてきた。本講義では、これらの歴史を知り、環境問題について学ぶ。さらに、「自然と都市環境」、「水と生活環境」、「地球温暖化」、「化学物質と環境」、「食と環境」等の身近な自然環境や生活環境を題材にして、科学のデータの見方や捉え方、考え方を学び、科学の概念について考え、将来、自らの学びを継続するための科学的素養を養う。授業形態は、講義とする。</p>	
	生命と科学	<p>生命の機構を科学的に理解し、「遺伝子が示す生命の歴史、進化」「生きているということはどういうことか」「地球で共に生きる生き物」「生命の流れの中の人間」「生き物としての人間の姿」「人間を知る方法としての科学」を学び、さらに生命、自然、人間、科学の視点から「生き物としての人間はどういう存在か」を考究し、地球環境、食料、人口、医療、教育の問題それぞれの学びを深め、生命・人間・科学・社会の繋がりを論考する。授業形態は講義とする。</p>	
	食の科学	<p>私たちは、健康に過ごすためには、適切な食品・食事を毎日摂取し、健全な食生活を営むことが肝要である。とくに、成長期にある子どもにとってどのような食品を摂取し、どのような食生活をおくる必要があるかを理解しておくことは重要である。本講義では、まず「食」について食品科学的に講義し、ついで、摂取した栄養素が体内でどのように代謝・利用されるか栄養学的に講義する。また、生活習慣病を起ししやすい食事・食生活について講義し、一方これとは対比させて健康に好ましい食事・食生活とはどのようなものかを講義する。また、近年食品の機能性の研究から特定保健用食品が開発されており、その目的と実際について講義する。授業形態は、講義とする。</p>	
	情報処理Ⅰ	<p>現代社会では、パーソナルコンピュータ(PC)を使いこなすことが当たり前となっている。本授業では、各種講義等で必要となる文書作成、データ処理、プレゼンテーションのためのPC利用技術について学ぶ。具体的には、ファイルやフォルダの概念を含むWindowsの使用法、ウェブブラウザを使用しているインターネットからのデータ検索法、マイクロソフトオフィスの使用法(ワードによるレポート作成、エクセルによる表計算、パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成)について演習を行う。授業形態は演習とする。</p>	
	情報処理Ⅱ	<p>実際にコンピュータを操作して、ワードやエクセルでの文書作成や計算、グラフ化等の演習を行う。また、各種ソフトの基本操作と用途を学び、コンピュータの機能を習得する。初心者がコンピュータやインターネットを使えるようにし、多様な情報から必要な情報を選択し、自らの情報として発信でき、実際の場面で活用できるようにする。授業形態は演習とする。 (② 日高英幸, ⑬ 渡邊耕二)</p>	共同
	英語Ⅰ	<p>本授業は、教員に必要とされる総合的な英語に関する基本的な学力を身に付けることを目的とする。そのために、英語Ⅰでは、さまざまなジャンルの英文を読み、それぞれに適した読み方のコツを学び、英語の特質の理解、英文読解力を身につける。授業形態は講義とする。</p>	

教養教育分野 教養発展科目	英語 II	<p>英語 I で培った大学レベルの基礎的な読解力や文法力をさらに発展させ、英語の文献を読みこなせる総合的な英語力を身につける。英米文学作品や自然科学、社会科学等の様々な分野の英文を読み、内容について話し合ったり、まとめたり、英文による要約を書いたりする。授業形態は講義とする。</p>	
	英語コミュニケーション I	<p>グローバル化が進むなか、日本人としてのアイデンティティと国際的価値観をもって世界の人々とコミュニケーションする能力を養うことはグローバル人材育成において不可欠と言える。英語コミュニケーション I、II、III の授業は、国際共通言語の英語によるコミュニケーション能力を身に付けることを基本に学習する。また討論やプレゼンテーションができる能力を養う学習をする。コミュニケーション I では、日常生活における基本的な英語表現を学習し、スピーキング・リスニングの技能を身に付けることに重点をおく。ネイティブスピーカーによる授業を通して異文化の価値観に触れ、実践的コミュニケーション能力を身に付ける。授業形態は、演習とする。</p>	
	英語コミュニケーション II	<p>グローバル化が進むなか、世界の人々とコミュニケーションする能力を養うことは不可欠と言える。英語コミュニケーションの授業は、国際共通言語の英語によるコミュニケーション能力を身に付けることを基本に学習するとともに、討論やプレゼンテーションができる能力を養う。英語コミュニケーション II では、英語コミュニケーション I に続き、日常生活における基本的な英語表現を学修し、スピーキング・リスニングに加えてライティングを身に付けることに重点をおく。語彙を増やし、文法を理解し、対話力を向上させ、自分の言いたいことを表現できる豊かな能力を養う。授業形態は演習とする。</p>	
	英語コミュニケーション III	<p>グローバル化が進むなか、世界の人々とコミュニケーションする能力を養うことは不可欠と言える。英語コミュニケーションの授業は、国際共通言語の英語によるコミュニケーション能力を身に付けることを基本に学習し、討論やプレゼンテーションができる能力を養う。英語コミュニケーション III では、英語コミュニケーション I 及び II で習得したことを基礎に、構文や文法の理解を確かなものにし、会話力・表現力の完成を磨く。与えられた課題に対し、自分でリサーチし、英語原稿とスライドを作り、英語でプレゼンテーションし、討論できる実践的コミュニケーション能力を身に付ける。授業形態は演習とする。</p>	
	Special Studies in English I	<p>本授業は、教員として英語力をより深め、実践的な英語学習を学ぶために国際教養学部で開講されている英語による授業科目を1科目受講するものである。受講する授業科目は1年次または2年次に開設されている科目から自由に選び学習する。英語による授業であることから、受講学生は、英語 I 及び II、英語コミュニケーション I 及び II を受講済で、TOEICスコア550点以上が望ましい。</p>	
	Special Studies in English II	<p>本授業は、教員として英語力をより深め、実践的な英語学習を学ぶために国際教養学部で開講されている英語による授業科目を1科目受講するものである。受講する授業科目は英語による授業であることから、受講できる学生は、英語 I 及び II、英語コミュニケーション I、II 及び III を受講していること、又は TOEICスコア650点以上が望ましい。選択する授業科目は、国際教養学部の3年次又は4年次において開講されている科目から自由に選び学習する。</p>	

教養教育分野	教養発展科目	健康の科学	現代病とも称される、現代の生活様式や環境に起因する様々な健康課題に対し、 私たちはどのように活動していくかが問われている。 そこで、健康に影響する外的・内的要素を知り、健康増進のために個人および集団として取り組むとともに、 健康の増進や疾病・異常の予防に関する膨大な情報を適正に判断する能力の必要性について学習する。 授業形態は講義とするが、学生同士のディスカッションを随所に取り入れる。	
		体育実技	生涯にわたる健康づくりの基礎を身に付けると同時に、各種の運動やスポーツを楽しむことで、体力の維持・増進を図っていくことを実践していく。特に、ゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームを中心に運動能力の向上を図り、主体的かつ継続的にスポーツに取り組む実践力を養う。授業形態は、実技とする。	
		子どもと食育	近年、偏食・過食・不規則な食事・運動不足などによる肥満や生活習慣病の増加は、大人に限らず、「子ども」においても健康を脅かす存在となっている。また、伝統的な日本の食文化や食の安全性などにも問題が生じている。これらの問題を「食育」で解決するため、食育基本法が制定・推進されている。本講義では、食育基本法の趣旨をはじめとして、子どもの発育期における食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践するために必要な知識・情報などを講義する。最後に、食育を推進するために、テーマを設定し、総合討論を行う。授業形態は、講義とする。	
専門教育分野	専門基礎科目	教職概論	本講義では、教職課程における入門科目として、①教職の意義や教員の役割、職務内容等について理解し、学校組織の一員として児童の教育をつかさどる教師としての使命観、倫理観及び一体感の習得をめざす。②学校現場の具体的な課題解決に必要な力量の形成に向けた主体的な学びの意欲を動機づける。③教職に対する自己の適性等を熟考させること通じて最終的な進路選択について指導助言し、④2年からの教職課程に向けた見通しと展望を切り開く過程を支援する。授業形態は講義とする。	
		教育原理	教育に関する欧語をとりあげて、教育の本質を理解させる。その延長で、近代教育思想の父と言われるJ.ルソーとペスタロッチの自然主義とその教育方法の特徴を理解させる。こうした理解を基本に、現代における教育の諸問題、例えば「能力」主義と競争主義、いじめと不登校、学力の低下と克服の問題などをとりあげて理解を深める。授業形態は、講義とする。	
		教育心理学	教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。この授業では、特に幼児教育・初等教育の教育過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。また、子ども1人1人の発達に応じた教育的対応についての理解を深め、教育現場における教育的内容に対応できる知識を習得する。さらに、障害のある幼児・児童の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。授業形態は、講義とする。	
		教育制度論	「学校」の欧語の語源とその意味の理解から始まり、義務教育としての近(現)代教育制度の誕生およびその歴史の変遷をたどり、どのようにして現代公教育が行われるようになったかの理解を深める。そして、教育制度の基本原則、理念、構成要素など教育制度の現状と課題、および近年の教育制度改革の比較考察を通して、教育制度とは何か、教育とは何かを考えることを目指す。授業形態は講義とする。	

専門教育分野	専門基礎科目	保育原理	保育者としてのキャリア形成を展望する上で、保育の意味、歴史、保育の意義等について理解する。特に、平成20年告示の保育所指針における保育の基本について、養護と教育の一体性、環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育、保護者との緊密な連携、倫理観に裏付けられた保育士の専門性について理解する。保育の現状を調べ、その課題解決の方策を検討する。授業形態は、講義とする。	
		児童家庭福祉	児童と家庭を取り巻く状況は、少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の低下、就労や経済的課題など問題は厳しさを増している。そこで、児童家庭福祉の理念や歴史をふまえて、児童家庭福祉の現状と課題についての理解を深め、児童家庭福祉推進のための、児童の家庭を支援する体制や仕組みづくりの考察を行う。 具体的内容としては、現代社会における児童家庭福祉の理念と歴史の変遷を学習する。また、児童家庭福祉の現状と課題をふまえて、児童家庭福祉と保育、児童家庭福祉の制度と実施体系を理解する。さらに、児童家庭福祉推進に向け、児童の家庭を支援する園・家庭・地域の連携ネットワークや仕組みづくりを考察する。授業形態は、講義とする。	
		社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷をふまえて、社会福祉と児童家庭福祉の違いや社会福祉の制度と実施体系、社会福祉における援助技術、社会福祉における利用者の保護に係る仕組み等を理解する。また、社会福祉の動向を知り、当面する課題とその対応策を考える。 具体的内容としては、社会福祉の基本的な考えや歴史の変遷、そして法制度についての学習を行う。そして、援助技術や社会保障について学び、社会福祉の問題解決を図るための資質を身に付ける。さらに、機関や施設と連携するためのコーディネートの方法を学ぶ。授業形態は、講義とする。	
		相談援助	保育者一人ひとりの相談援助能力が、子どもを取り巻く生活を支える根幹になるという意識を持ち、保育や幼児教育に関わる専門職に求められる社会福祉のソーシャルワークを活用した相談援助の意義を理解する。また、実際の相談援助の演習を通して、具体的な相談援助の技術と方法を身に付ける。 社会福祉の理念に基づいた相談援助の概要を学び、ソーシャルワークの意味を理解する。さらに、技術と方法を学び、様々な演習を取り入れ実践的な授業を行う。また相談援助は、相談援助の多様な専門職との連携のなかで援助を展開していく必要があることから、連携ネットワークづくりについても学習する。授業形態は、演習とする。	
		社会的養護	養護原理、養護内容の名称が変更になったもので、まず、現在の社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について考察し、福祉制度における類型別施設養護の意義とその処遇展開についての基礎知識を習得する。施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、特別な配慮を必要とする幼児への援助や保護者への援助について検討する。授業形態は、講義とする。	
		保育者論	保育者についてとその役割、あるべき姿について学び、自分の目指すべき保育者像を描けるようにする。保育士の置かれている状況を理解し、保育士の専門性とは何かを考察する。現代社会における保育の課題をとらえ、仲間とともに学び合い成長し続ける関係性を育む。 具体的内容としては、講義保育者の職務内容について概観し、保育者として大切にしたい視点やまなざしについて学習する。また、保育者の学び合う姿勢が目指すべき保育の専門性を向上させていることを理解する。授業形態は、講義とする。	

専門教育分野	専 門 科 目	保育の心理学Ⅰ	保育の心理学Ⅰの授業では、保育実践に関わる子どもの発達の特徴(身体・機能発達、知覚・認知の発達、言語と社会性の発達など)と生活や遊びにおける環境との相互作用の中で実現する学びの過程を理解し、より効果的な保育を展開するために必要な心理学の基礎的事項について学習する。また、生涯発達の観点から人間の一生に渡る発達の過程やそうした発達の基盤となる初期経験の重要性について理解し、子どもが人との相互的なかわりを通して発達していく過程を具体的に理解する。授業形態は、講義とする。	
		保育の心理学Ⅱ	保育の心理学Ⅱの授業では、保育の心理学Ⅰで学習した基礎的な心理学の知識を踏まえて、子どもの心身の発達と保育実践について学生同士の話し合いやグループでの協同学習を用いた演習形式の学習方法により理解することを目指す。また、日常生活と遊びにおける経験から子どもは何をどのように学んでいるのかについて、子どもの学習の過程を理解する。さらに、こうした保育場面における子どもの発達を促すために、保育者はどのような発達援助を行えばよいのかについて、主に保育実践における様々な事例を通して学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		子どもの保健Ⅰ	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。子どもの疾病とその予防方法と適切な対応について理解する。子どもの精神保健とその課題等について理解する。保育現場、施設等における子どもの心身の健康、事故防止並びに安全対策と危機管理を理解する。まとめとして子どもの健康と安全にかかわる保健活動の計画、評価を学ぶ。授業形態は講義とする。	
		子どもの保健Ⅱ	子どもの成長と発達に影響を与える因子としての遺伝因子、環境因子、個性特性の理解に基づいたそれぞれの発育段階に応じた健康増進、心身の成長と発達を促す環境および保健活動の社会的意義を学ぶ。子どもの保健と環境、子どもの疾病と適切な対応、特に障害のある子どもへの適切な対応を理解する。事故防止および健康安全管理、心とからだの健康問題と地域保健活動の現状を理解する。授業形態は演習とする。	
		子どもの食と栄養	適切な食事・食生活は、子どもにとって生涯にわたる健康づくりの基礎となることから極めて重要である。本講義では、まず「食と栄養」に関する基礎知識を講義する。ついで、子どもの発育期における食事・食生活の重要性を講義し、また、生活習慣病との関係について述べる。さらに、家庭や保育園・幼稚園・小学校・児童福祉施設などにおける具体的な事例研究や教材作成実習・食事指導実習などで実践し、理論と実践の両面から理解を深める。また、食物アレルギーなど特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養についても学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		家庭支援論	家族を支えていた親族や地域の関係基盤が希薄になった現在、その代替機能を果たすことが保育所に求められるようになった。そこで、保育士固有の家庭支援の理念や方法を学び、子育て、親育ち、親子関係育ち、そして子どもを取り巻く家庭や地域を支える保育士の支援役割を理解する。 具体的内容としては、家庭の意義とその機能をふまえ、現在の子育て家庭を取り巻く社会的状況等を理解する。そして、家庭支援の意義や理念、支援体制を学び、保育士として求められる家庭支援の実践力を身に付ける。また、家庭の子育て力を引き出すために、関係機関や地域資源との連携の方策を探る。授業形態は、講義とする。	

専門教育分野	専門科目	臨床心理学	臨床心理学とは、人々の精神的問題・不適応行動等について、支援、改善、予防を行い、精神的健康の回復・増進・教育を目的とする心理学の一分野である。この授業では、主に幼児期、児童期の子どもを対象に、精神症状、発達障害、社会不適応問題のような改善的支援を必要とする状態についての理解を深め、こうした症状に対するアセスメントの手法及び介入技法について理解することを目的とする。授業形態は、講義とする。	
		国語 (書写を含む。)	日本語の主要な特性として、文字言語の豊かさがあげられる。表意文字(漢字)・表音文字(カタカナ、ひらがな、ローマ字)を有し、これが豊かな言語表現をもたらした。日本の伝統的言語文化はこの多様な文字表現の上に成り立っている。日本における文字言語獲得の過程と、国字の創造など先人の工夫を知り、豊かな伝統的言語文化(古文、漢文、短歌、俳句、ことわざ、四字熟語等)を学ぶことによって国語への理解と愛着を深める。また、漢字に関する基礎知識(部首、筆順)、書写の基本等についても学習する。授業形態は講義とする。	
		社会	小学校社会科の内容を踏まえて、地域の産業と消費生活、健康な生活や良好な生活環境、地域の地理的環境、地域の変化と地域社会に尽くした先人の働き等、地域社会学習の基本を学習する。地理分野では、わが国の国土環境と産業、公害と国民の健康・生活環境、自然災害からの国土保全、国民の食生活と農水産業及び貿易。世界と日本の地域構成について学習する。歴史分野では、縄文時代から現代までのわが国の歴史を考える。公民分野では政治及び国際理解について、基本的な概念・事項を体系的に習得する。授業形態は講義とする。	
		算数	算数的活動が重視される新学習指導要領において、その根底に存在する数学的な概念や数学的な見方・考え方を身に付けることを目的とする。そこで、算数科で扱われる内容の理解を数学的に深めることを試みる。まず算数科で扱う4つの領域「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」を数学の体系の中で位置付ける。そして個々の領域の内容を数学の体系の中で捉えていく。またそれぞれに関係する数学のトピックを具体的に示しながら、数学と数学的な見方・考え方を身に付けることを目指す。授業形態は、講義とする。	
		理科	小学校学習指導要領理科の内容を踏まえて、小学校理科で扱う内容及び観察、実験の基礎的知識を獲得することを目的とする。具体的には、小学校学習指導要領理科の内容区分(物質・エネルギー・生命・地球)ごとに、観察、実験、観測を通して自然科学の基礎的知識とその方法を獲得する。さらに、小学校理科授業の安全指導に関して、観察、実験の基礎的知識とその方法の獲得も目的とする。授業形態は、講義とする。	
		生活	生活科は、具体的な体験や活動を通して「自立への基礎」を養う教科として、平成元年に新設された。本授業では、新設の背景、趣旨について学習指導要領解説により理解する。次に、平成20年改訂での生活科の改善の基本方針をもとに、生活科の特質や目指すものについて理解を深める。さらに具体的実践事例を参考にしながら講義、演習等を通して生活科の教科目標や内容等について理解し、生活科の指導に必要な基礎的な考え方や内容を学んでいく。授業形態は、講義とする。	
		音楽	小学校音楽教科書に掲載されている6年間の教材を、小学校学習指導要領音楽編に基づいて、音楽理論、音楽史、楽器学、演奏形態、日本の音楽、諸外国の音楽・民族音楽の観点から分類し、基礎的知識を習得する。その知識に基づき、歌唱教材によって楽譜を正確に歌う力を高め、コード理論や音楽理論の学習によって伴奏楽譜やコードによる弾き歌いの技能を培い、教材曲の時代背景や成り立ちを理解し、より高度な表現力・指導力を身に付ける。授業形態は演習とする。	

専門教育分野	専門科目	図画工作	この授業では、図画工作の基礎技能を習得する。学生自身が自分らしさを発揮して表現を追求し、その過程を通して基礎技能を養う。学生自身が表現を楽しみながら、毎回の製作に取り組み、想像力や感受性、構想力を含む造形感覚と創造的な技能を高めていく。製作活動を通して材料・道具に関する知識を得ると共に、材料・道具を扱う技能を高め、効果的で安全な扱い方の指導ができるようにする。鉛筆・色鉛筆、コンテ、水彩絵の具、顔彩・墨、小刀、針金、ペンチ、鋸・金槌等を扱う。授業形態は、演習とする。	
		家庭	家庭科学習において「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して基礎的・基本的な知識および技能を身に付け、家庭生活を大切にする心情をはぐくむ」観点から、生活上の様々な問題点を解決するために基礎的・基本的な知識および技能の定着が重要であることを認識させる授業とする。また、思考力・判断力・表現力及び言語活動の充実を図り、家庭や地域との関係を密にし、少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会など社会の変化に対応した総合的な家庭科学習を構成し、実践的・体験的な学習の充実を図ることが重要であることを学ぶ授業とする。授業形態は、講義とする。	講義24時間 実習 6時間
		体育	幼稚園や小学校における心と体の健康の保持増進を図るための内容について、様々な身体運動や遊びの実践を通して理解を深めていく。そのために、それぞれの身体運動や遊びの特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた運動の技能のポイントや健康増進および体力の向上に関する基本的な知識について学習する。また、身体活動の場における事故やけがの防止や援助などについても学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		ピアノ・声楽Ⅰ	本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術の基礎を学び、音楽を使った活動における指導能力の必要性について理解する。そのために、ピアノ・声楽の演奏技術の基礎を学び、それに伴う音楽理論、知識を深め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を育成する。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、相互にレッスンを聞き合うことを通して、バイエル教則本前半の演奏、学生の能力に応じた伴奏形による幼児の歌や小学校共通歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。授業形態は演習とする。 (6 田中幸子, ⑩ 片野郁子, 19 シムウェル英華, 21 本田奈留美, 32 土田悦子, 34 藤本美妃, 36 浜月春佳)	共同
		ピアノ・声楽Ⅱ	本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術を習得することによって、音楽を使った活動における指導能力の向上を目指す。そのために、ピアノ・声楽の演奏技術を高め、それに伴う音楽理論、知識をさらに深め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を育成する。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、相互にレッスンを聞き合うことを通して、バイエル教則本後半の演奏、学生の能力に応じた伴奏形による幼児の歌や小学校共通歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。授業形態は演習とする。 (6 田中幸子, ⑩ 片野郁子, 19 シムウェル英華, 21 本田奈留美, 32 土田悦子, 34 藤本美妃, 36 浜月春佳)	共同
ピアノ・声楽Ⅲ	本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術を習得することによって、音楽を使った活動における指導能力の向上を目指す。そのために、ピアノ・声楽の演奏技術やそれに伴う音楽理論、知識をさらに高め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を持った表現を目指す。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、相互にレッスンを聞き合うことを通して、様々な楽曲の演奏、学生の能力に応じた伴奏形による幼児の歌や小学校歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。授業形態は演習とする。 (6 田中幸子, 19 シムウェル英華, 21 本田奈留美, 32 土田悦子, 34 藤本美妃, 36 浜月春佳)	共同		

専門教育分野	専門科目	ピアノ・声楽Ⅳ	<p>本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術を習得することによって、音楽を使った活動における指導能力の向上を目指す。そのために、ピアノ・声楽の演奏技術やそれに伴う音楽理論、知識をさらに高め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を持った表現を目指す。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、相互にレッスンを聞き合うことを通して、様々な楽曲の演奏、こどもが目の前にいることを想定した幼児の歌や小学校歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。授業形態は演習とする。</p> <p>(6 田中幸子, 19 シムウェル英華, 21 本田奈留美, 32 土田悦子, 34 藤本美妃, 36 浜月春佳)</p>	共同
		子どもの音楽活動	<p>学級集団や学校集団で行われる音楽活動は子どもに豊かな情操と音楽的感性を育て、その体験が子どもの音楽と人間の形成に大きな影響をあたえる。この音楽活動の授業では主に「学芸的行事(音楽集会、今月の歌…など)」「儀式的行事(入学式、卒業式…など)」を展開するための基本的な知識、技能を習得するため合唱を中心に理論的、実践的学習を行う。授業形態は、演習とする。</p>	
		子どもの英語活動Ⅰ	<p>小学校5・6年生の外国語活動において自信をもって指導することができるように、指導に必要な理論と指導の実際を理解させる。特に英語によるコミュニケーション能力の育成と英語活動における指導力の向上を目指す。そのために優れた実践例を紹介すると共に、グループ活動や受講者の実際の発表を通して、実践的指導力を身につけさせる。授業はグループ協議や模擬授業を取り入れ、学生参加型のアクティブ・ラーニングとする。</p>	
		子どもの英語活動Ⅱ	<p>平成25年度に小学校の英語活動で実際に使用されている「Hi Friends」というテキスト内容を使用し、学生に実際の教材を使って実演(模擬的なセッション)をやらせながら、小学校における英語活動の授業の在り方について問い、そして主体的で独創的な考えを導く。日本の小学生が英語を学ぶ時に大切な事は何なのか、ALTとの連携なども踏まえて考える。教育現場で自信を持って英語を教える事が出来るように、学生主体型の実践的な授業にする。授業形態は、演習とする。</p>	
		国語科教育法Ⅰ	<p>小学校国語科教育における目標論、方法論、評価等について講義及び演習を通して学習する。学習指導要領(国語)における目標を確認し、更に戦後国語科教育の目標の変遷をたどることにより、理解を深める。特に経験主義国語教育から能力主義教育、ゆとり教育への転換の意味を理解する。各学年(2学年ごと)の目標・内容・系統性等を確認し、各領域及び事項(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)」ごとの授業実践例参照により、授業展開について学ぶ。また評価の考え方について学習する。授業形態は演習とする。</p>	
		国語科教育法Ⅱ	<p>各学年の文学的文章教材・説明的文章教材の中から幾つかを対象として取り上げ、具体的に分析を行うことで教材研究能力を培う。まず、各教材が該当学年また6年間のなかでどのような系統のもとに位置づけられているかを確認し、教材が単独に設定されているわけではないことを理解する。対比構造など「読み取るための基本的な読解技術」を学び、その技術を応用して教材分析を行う。また視点論についても学習し、その観点から教材を分析検討する。個人及びグループ研究とし、研究発表を行う。授業形態は演習とする。</p>	

専門教育分野	専門科目	国語科教育法Ⅲ	小学校国語教材を対象とした授業実践記録(ビデオ・学習指導案)の授業展開・発問・板書の仕方等を参照し、その指導案に基づいた模擬授業を行う。次いで、目標を設定し新たな教材を開発する。教材分析の上、授業を構想し模擬授業を行う。教材は扱いやすさを考慮し、主として詩教材、短い物語教材とする。また、「読む」「書く」二領域を関連させた創作指導を学ぶ。物語教材の構造を分析し、その構造に則った創作過程を体験することで創作指導法を身に付ける。その上で、他の物語を教材として創作指導の模擬授業を行う。授業形態は演習とする。	
		社会科教育法Ⅰ	小学校社会科の成立と変遷を、小学校社会科の基本的性格(社会的知識と態度・能力の統一的育成)を軸として理解する。その育成方法の歴史の変遷を視野におき、小学校社会科の学習方法原理(目標と内容、方法の在り方)の4類型について理解する。その上で、現行学習指導要領に基づく各学年の社会科の目標と内容、考え方やその指導の在り方を理解する。さらに社会科における観点別評価の方法を学習する。授業形態は演習とする。	
		社会科教育法Ⅱ	小学校社会科における教材研究と教材開発の意義を理解した上で、小学校社会科の地域社会及び地理・歴史・公民の3領域の学習内容について分析し、教材研究を行う。具体的には、歴史的な学・資料を解説・分析し教材化する方法や博物館等の活用の仕方、また映像資料・新聞記事・統計資料をどのように授業に取り入れるかについても、実践的に学習し、学習指導案を作成する。授業形態は演習とする。	
		社会科教育法Ⅲ	小学校社会科教育で優れていると評価されている実践や主要な指導理論・方法を取り上げ、その特色と問題点などについて分析研究する。その上で、中学年の地域学習単元、高学年の各領域単元について、それぞれ学習指導案を作成し、模擬授業を行う。グループ毎に授業研究会を行い、発問・助言の仕方、板書の仕方や板書計画について分析し、授業記録・授業分析等の実践的な方法を身に付ける。授業形態は演習とする。	
		算数科教育法Ⅰ	算数科における教育目標の歴史的な変化を捉え、目標の変遷とその背景を理解する。そして現行の算数科の目標と指導内容を「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4つの領域別に確認し、指導上の留意点を把握する。また指導に関してICTを活用した方法が注目されているため、その活用事例とソフトウェアの一つであるGeoGebraを取り上げる。加えて算数科における「評価」について、その種類と方法を知る。また国内外における学力調査を取り上げ、算数科における評価に関する知識をさらに深める。授業形態は、演習とする。	
		算数科教育法Ⅱ	小学校学習指導要領解説から指導内容を理解するために、算数科で扱う内容の系統性を学年間と学年内および中学校数学科との接続の3つの視点から検討する。次に算数的活動を通じた指導に向けて、その定義と各学年における具体例を把握する。また教科書に目を向け、分数に注目しながら算数的活動についてさらに理解を深める。続いて算数的活動を促す実践例を示し、実際に領域別で教材を作成する。そして作成した教材について議論し合い、その向上を促す。最後に学習指導案の意義と書き方を学び、作成した教材を活用した指導案作成に取り組む。授業形態は、演習とする。	

専門教育分野	専門科目	算数科教育法Ⅲ	授業研究には、教材研究(Plan)、研究授業(Do)、授業検討会(See)、授業改善(Action)という4つの一連の流れがある。まず実際の授業の視聴を通じて、教師の立場から授業を分析し、授業と指導案の関係を理解する。次に授業作りに向けて、授業の目的と授業展開のつながり、板書や発問などの授業技術と学習形態について理解する。続いて授業を作る単元を選択し、その教材研究を通じて指導案を作成する。そしてその指導案を用いて研究授業を行い、授業検討会を通じて指導案を再考し、授業改善に繋げ、再度研究授業を実施する。最後にその効果の検討を通じて、授業研究の4つの流れの意義と役割りを体感する。授業形態は、演習とする。	
		理科教育法Ⅰ	小学校理科教育の基礎について理解を図る。具体的には、小学校学習指導要領理科編の歴史の変遷や現行の小学校学習指導要領理科編の目的・目標、内容構成及び小学校理科の指導法、評価法について理解を図る。さらに、児童の理科学力の現状と課題、特に課題となっている理科を学ぶ意義や理科学習の有用性の実感、自然体験・科学体験について説明する。そして、A区分(エネルギー・粒子)、B区分(生命・地球)の指導法や各学年の探究能力育成法について説明をする。さらに、評価法の説明と具体的な評価問題の作成を行わせる。また、ICTを利用した授業を体験させ、観察や実験、観測の安全指導に関してもふれる。授業形態は、演習とする。	
		理科教育法Ⅱ	小学校理科教材を分析し、教材を開発する力を育成する。まず、教科専門科目理科の内容を踏まえて、小学校学習指導要領解説理科編の項目に示された教材、小学校理科教科書に提示されている教材を学年ごとに分析させる。特に、新教材に関しては詳細に分析させる。次に、分析した知見を踏まえて、児童の思考にあった教材開発を行わせる。そして、開発した教材の有効性を批判的に検討させる。最後に、教材についての検討結果を踏まえて、指導案を作成する。授業形態は、演習とする。	
		理科教育法Ⅲ	小学校理科の授業を視聴・分析するとともに、授業づくりの視点や学習指導案の作成について理解を図り、小学校理科の授業力を育成する。理科授業分析・授業づくりの視点は、課題の設定、発問の仕方、発問による児童の反応、板書計画、予備実験、安全管理、児童の思考の流れにあった授業デザイン等である。これらの視点を踏まえて、実際に小学校の理科授業を視聴させ、授業を分析させる。そして、分析結果から得られた知見を踏まえて学習指導案(単元観、教材観、指導観、評価基準、本時の指導)を作成させ、模擬授業を行わせる。その後、模擬授業を批判的に検討させる。授業形態は、演習とする。	
		生活科教育法	生活科の目標と内容などに基づき、指導計画案の作成により指導計画作成の基礎・基本を理解する。さらに、実践事例を参考に授業展開のあり方、授業改善を図るための評価のあり方についても学ばせる。特に、1学年は幼小連携の視点、2学年は上級学年の教科との連結の視点も含め、発達段階に応じた指導のあり方も学んでいく。さらに、生活科の指導事例の分析を踏まえて、具体的に教材研究を行い、学習指導案の作成や模擬授業の実践等を通して、生活科における学習指導の基本原則を身に付けるとともに実践的な指導力を培う。授業形態は、演習とする。	
		音楽科教育法Ⅰ	「音楽科教育法Ⅰ」では、小学校音楽科の目標「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」に基づき、児童の全人的な育成を担う役割があることを理解する。また、学習指導要領にある各学年の目標及び内容の系統表、児童の教科書の内容を研究し、内容分析や系統性を検討していく。授業形態は演習とする。	

専門教育分野	専門科目	音楽科教育法Ⅱ	日本の音楽教育の歴史の変遷を把握し、「音楽科教育法Ⅰ」で習得した文部科学省小学校学習指導要領音楽編における、音楽指導の内容、意義、目的、目標、指導法、評価法の知識に基づき、児童の音楽表現力を引き出す指導者としての技術の習得、並びに授業づくりの基礎能力を養うことを目的とする。具体的には、指導計画の立て方を研究し、模擬授業の実施を通して小学校音楽指導内容をさらに把握し指導力を培う。授業形態は演習とする。	
		図画工作科教育法Ⅰ	図画工作科の学習指導要領の目標、内容構成、指導計画の作成と内容の取り扱いを理解する。各学年で扱う造形遊び・絵に表す・立体に表す・工作に表す・鑑賞について、その目標と内容方法、評価、指導上の留意事項等について実技を取り入れながら体験的に学ぶ。子どもの製作活動における発達段階や図画教育の歴史、生涯学習の視点について知る。授業形態は演習とする。	
		図画工作科教育法Ⅱ	色や形を生かした表現の指導法及びイメージをどう表現するか等について、学生が実際に体験した後考察する。また、図画工作科で扱う材料・道具について児童対象にどう指導するか学生が分担して調べ、模擬ミニ授業を行う。版画については技能を習得するとともに、学習指導案を作成し発表する。これらの模擬ミニ授業や版画的学習指導案作成を通して、児童が感性を働かせながら意欲的に表現・鑑賞するための指導方法について考察する。授業形態は演習とする。	
		家庭科教育法	家庭科学習は児童に「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して基礎的・基本的な知識および技能を身に付け、家庭生活を大切にすることを心がける」ことから ① 生活における様々な問題点を解決方法する問題解決的な学習を追及・実践し、思考力・判断力・表現力をはぐくみ言語活動の充実を図る授業とする。 ② 社会の変化に対応した豊かな心と確かな実践力をはぐくむために、少子高齢化や食育の推進、持続可能な社会の構築などを十分理解させ、体験的な学習を取り入れ実践力を身に付けることにつながる授業とする。 ③ 家族の一員としての自覚を高め、家庭生活を大切にすることを心がける授業とする。授業形態は、演習とする。	
		体育科教育法Ⅰ	幼稚園や小学校における運動遊びや体育学習領域の特性や内容について理解するとともに、過去の教え込む、まねるという教育法から脱却し、子どもたちに自己判断・自己決定の能力を身につけさせることを目指した教育実践を行う必要性について学ぶ。そのために、基本的な体育の考え方や立場を概観した後、それらを踏まえ、実践への具体的な方策について理解し、実際の教育現場で必要とされる知識や技術の指導力の習得を目指す。授業形態は、演習とする。	
		体育科教育法Ⅱ	教科の特性や内容を理解したうえで、様々な身体運動や遊びの実践を通して運動理論と技能の習得を目指す。特に、様々な運動において、条件を変えながら見本を提示することにより、上達のポイントに気付かせるのと同時に、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。また、学び方として、子どもたちによる「自主的・自発的」学習を意識させ、「基礎・基本」の定着にこだわりながら、運動の楽しさや喜びを味わわせるために、子どもたち一人一人の生き方に配慮した学校体育にするための授業のあり方を探求する。授業形態は、演習とする。	

専門教育分野	専門科目	道徳教育の指導法	「道徳の時間」では道徳的実践力を育成するために、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習を行うことが求められている。児童を取り巻く社会全体のモラルの低下、また、家庭や地域社会の教育力の低下から、道徳教育の重要性を理解させ、道徳教育の全体構想を理解させるとともに、1単位時間の「道徳の時間」の充実を図り道徳的価値の自覚を高める指導計画・教材資料の検討及び指導過程を検討・研究する。授業形態は、講義とする。	
		特別活動の指導法	特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達や個性の伸長、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てるとともに、自己の生き方について考えを深める能力を養う時間である。この授業では、特別活動の趣旨や目標、教育的意義について概観し、各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連について考察する。その上で、具体的な実践事例の検討や、指導計画の作成等を通して、実践的指導力を身に付けさせる。授業形態は講義とする。	
		特別支援教育概論	特別支援とは、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に対して、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を受け、支援を図ることを理解する。そのための学校として、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すための特別支援学校が設置されていることや、特別支援学級を置いている学校もある現状を理解する。その基礎の上にあたって、各障害ごとの教育課程や日常生活における支援・協力の在り方等について研究する。授業形態は講義とする。	
		教育の方法と技術	今日学校教育においては、児童の発達段階や個性に応じた様々な教育の方法及び技術が求められる。電子辞書、電子黒板他マルチメディア機器の活用方法及び技術を習得することが重要である。授業の目標、内容、指導、評価に関する理論的知識の習得とともに、望ましい教育方法の在り方を研究する。授業形態は講義とする。	
		学級経営論	学級担任と児童および児童相互の相互作用によって、すべての児童が生き生きと心豊かに成長するように、目標を定め、計画を立てて実践し、評価を通して計画を見直し改善していくのが学級経営である。集団づくりや人間関係づくりの理論及び実践方法を学び、学級経営案を検討するなど、様々な実践事例の分析・検討を通して学級経営の実践力を育成する。授業形態は、講義とする。	
		協同学習論	協同学習は、グループダイナミクス、認知心理学等の実証科学を基盤とした近年特に注目されている学習指導法の理論である。この授業では、まず協同学習の考え方が生まれた背景と基本的な考え方を学び、その後実際の協同学習の技法についてロールプレイを用いて体験することで、教育現場で実践的に使用する技術を身につける。授業形態は、講義とする。	
		教育課程論	小学校は義務教育であり、公の性質を有するものであるから、全国的に一定の教育水準を確保する必要がある。その観点から、教育課程の基準の必要性や学習指導要領の性格に関する理解は不可欠である。教育課程の編成・実施については、以下の事項について学習する。教育課程編成の法的根拠、教育課程の一般方針、編成の手順、編成の基本方針、編成に必要な事前の研究や調査、学校の教育目標の設定など。さらに、教育課程の実際を学習していく。授業形態は、講義とする。	

専門 教育分野	専門 科目	環境教育論	<p>科学技術の発展やそれに伴う経済成長は世界的な環境問題(地球温暖化, 生物多様性の喪失等)を引き起こした。このような状況下であるため, 環境教育の推進は喫緊の課題である。そして, 環境教育を教える教員は環境教育に関する基礎的知識・技能を身につける必要がある。そこで, 本授業では, 環境教育の発展過程, 現状, 課題を踏まえ, 環境教育の目的や内容及び方法と環境教育のカリキュラムや授業構成の特質を明らかにすることを目的とする。また, 調査や実験を実施し環境教育の一環として行われている科学的アプローチを体験する。授業形態は講義を中心とする。</p>	<p>講義26時間 実験 4時間</p>
		学習の科学	<p>この授業では, 学習に関する考え方の歴史的変遷, 学習の基礎的なメカニズム, カリキュラム編成や授業方法等の学習に対する基礎的な考え方を教育心理学及び教育学における知見から体系的に理解することで, 学習者の主体的・効率的な学習はいかにして実現できるのかについて考える。授業形態は, 講義とする。</p>	
		特別演習	<p>学校現場に就職する事を目指し, 今日の学校教育をめぐるさまざまな問題を, ミクロ(子ども集団)からマクロ(教育行政・政策)まで広い視点で把握できる力を養う。毎回, 発表とディスカッションによって教師としての同僚性を育成することも大きな目標とする。授業形態は演習とする。</p>	
		生徒指導・進路指導	<p>生徒指導は, 学校生活のあらゆる場や機会を通して児童生徒の健全な成長を促し, 自己指導能力の育成を目指す営みである。進路指導は, 児童生徒の社会的自立に向け, 必要な基盤となる能力や態度を育てる営みである。価値観の多様化, 急激な社会の変化, 高度な技術革新の中で, 生徒指導上の各種の問題に対する解決の方策や, 小学校からの体系的なキャリア発達を視野に入れたキャリア教育のあり方を考察する。授業形態は講義とする。</p>	
		幼児理解	<p>幼児期の子ども理解は, 保育や教育の基盤となる。そこで, 幼児の実際の姿や具体的事例を通して, 子ども観, 発達観, 保育観の観点から子ども理解を深め, 発達課題に応じた保育や教育の現場における援助の方法を学ぶ。 具体的内容としては, カウンセリングマインドによる子どもや家庭への関わり方である。幼児自らが発達に必要な経験を主体的に取り組んでいくような援助の仕方を身に付ける。授業形態は, 講義とする。</p>	
		教育相談	<p>児童・生徒の成長・発達を援助する教育相談の意義, 内容, 方法を理解する。とりわけ「いじめ」「不登校」問題への対応, 保護者や諸機関・地域との連携, 学校における教育相談システムの構築について, その具体的手法を身に付ける。 教育現場では, 様々な問題が起こり, 教師における教育相談の資質がますます重要になっている。そこで, 本講義では, 教育相談の歴史や意義, カウンセリングを用いた援助内容や方法について, また学級経営のあり方や児童・生徒の問題への対応について, さらに保護者や諸機関・地域との連携や学校における教育相談のシステム構築についての理解を深め, 援助者としての資質の獲得を目指す。授業形態は, 講義とする。</p>	
		保育課程論	<p>保育所保育における保育内容の充実と質の向上を図るための保育の計画について理解する。具体的には保育課程の編成から指導計画作成までの流れや作成上の留意点について, 実際の園の保育課程を参考に指導計画を作成し, 考え方について理解する。また保育の計画, 実践, 省察・評価, 改善などの保育の循環や評価の必要性, 保育所児童保育要録へのつながりについても学ぶ。授業形態は講義とする。</p>	

専門 科目	専門 教育 分野	保育内容総論	従来の保育内容の教科目を保育内容総論と保育内容演習に分けたものであり、保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて理解する。子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解させる。授業形態は、演習とする。	
		保育内容指導演法 (健康)	別表第1の「保育内容演習」の教科目を指導演法(健康)・指導演法(人間関係)・指導演法(環境)に分けたものであることを理解する。養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれの関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことを「健康」の領域で取り扱うことを理解する。授業形態は、演習とする。	
		保育内容指導演法 (人間関係)	人間関係の基盤となる社会性や道徳性は、乳幼児期の人とのかかわりの中で形成される。本講義では、乳幼児期の人間関係の重要性をふまえて、保育指針や幼稚園教育要領に示されている領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、あそびや生活を通して総合的に援助できる保育者の資質を養うことを目的とする。 具体的内容としては、人とのかかわりの重要性を学び、乳幼児が発達段階に応じて、どのような働きかけによって人とかかわる力を身に付けていくかを理解する。また、具体的な保育におけるあそびや生活を通して、子どものかかわる力を育む支援の方法を学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		保育内容指導演法 (環境)	別表第1の「保育内容演習」の教科目を指導演法(環境)・指導演法(健康)・指導演法(人間関係)に分けたものである。そのため、この授業では幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていく指導演法を身につけることを目的とする。幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって積極的にかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を育成するための視点については演習を通して具体的に検討する。授業形態は、演習とする。	
		保育内容指導演法 (言葉)	保育における領域「言葉」の目的と内容について理解するとともに、子どもの言葉の発達や子どもの「言葉を育てる」指導について理解することを目的とする。本授業では、言葉にかかわる現代社会の課題と子どもにとっての言葉について、言葉との出会い方、言葉が開く新しい世界などについて学習する。さらに、言葉の発達の土台、プロセスや言葉を育てる環境について理解し、子どもの言葉を育てる指導・援助の在り方について学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		保育内容指導演法 (音楽表現)	本授業では、子ども自らが主体的に音楽にかかわっていくことができるように、保育現場で使われている音楽あそびなどの体験を通して、音や音楽とからだの動きや表情などの表現の相互関係を理解し、遊びを体得しながら音楽表現活動について学習する。心と身体で表現することの喜びを体験することができるよう創造的な授業を学生とともに作り上げ、実践的指導力を高める。具体的には、日本語や英語による手遊びうた、リズム遊びや楽器遊び、パネルシアターの演技、わらべうたなどを中心に行い、幼児の発達段階に即した音楽教育法を研究する。授業形態は演習とする。	
		保育内容指導演法 (造形表現)	学生自身がイメージを持ち感性を働かせながら表現することを通して、表現の喜びを得るとともに、造形的な表現活動の能力や創造性を高める。子どもの発達を知り、造形表現活動のねらいと内容を理解し、ねらいの達成のための教材について体験的に学ぶ。さらに、製作過程を振り返り、製作によって幼児が発揮し伸ばさせる能力や材料用具等の準備、保育者の援助や配慮について検討することで、造形表現活動を幼児に指導できる力を養う。授業形態は、演習とする。	

専門教育分野	専門科目	障害児保育	各種障害に関する基礎知識を基に、保育の実践記録の分析・演習を通して、障害のある子どもの理解と発達を援助する保育の在り方を研究する。障害児保育の今日的な諸課題、例えば障害児と保育の計画及び個別支援計画、健常児の障害児理解、家族への支援、地域との連携及び地域発達支援ネットワークづくり等を取り上げ、障害児保育に必要な知識を習得し、保育者としての資質を向上させる。授業形態は、演習とする。	
		保育相談支援	近年の社会状況の変化、家族機能の変化に伴い、子育てについて気軽に相談できる人が以前より少なくなった現在、子どもの発達を支える保育士が保護者の子育ての悩みを受け止め、支援をしていく役割が期待されている。そこで、本授業では、保育相談支援の意義や基本について学び、保育士の専門性を生かした保育相談支援の専門性獲得を目指す。 保育相談支援の意義と原則をふまえ、子どもの成長に対する喜びの共有や保護者の向上に対する支援、さらに信頼関係を基本とした受容的かかわり方などの、保護者支援の基本を学ぶ。その上で、実際に保育現場や地域の子育て支援現場で扱われている事例を通して保護者支援のあり方や技術を学ぶ。授業形態は、演習とする。	
		社会的養護内容	子どもの養護に携わる保育士は、子どもの権利を擁護するという視点が必須となる。この視点から、社会的養護の実施体系をふまえ、養護現場で実際に行われる支援についての内容と方法を学び、社会的養護を担う専門職としての技術の獲得を目指す。 具体的内容として、社会的養護における子どもの権利擁護と保育士等の倫理及び責務をふまえて、施設養護、里親制度等の社会的養護の実施体系を学ぶ。また、養護現場における個別支援計画と内容－日常生活支援、治療的支援、自立支援－の内容と方法を理解する。事例の分析、考察を深め、社会的養護にかかわる専門的技術の資質を理解する。授業形態は、演習とする。	
		乳児保育	乳児保育の理念と歴史の変遷について学ぶ。また、総合こども園の役割りについて理解し、保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。特に、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場としての幼稚園等の就学前園児の活動の実態に触れる。授業形態は、演習とする。	
		ことばと遊び	絵本や紙芝居など、子どもの遊びを豊かに展開するための言語表現にかかわる知識・技術を習得するとともに、子どもの表現活動を支援する教材の活用や具体的な展開について学ぶことを目的とする。本授業では、まず、子どもの発達と絵本・紙芝居などの児童文化財との関連および遊びとの関連について学び、さらに、絵本の読み聞かせ・人形劇やペープサート、ストーリーリングの方法・技術や保育指導の展開の仕方について学んでいく。授業形態は、演習とする。	
		音楽と遊び	本授業では、子どもの発達に応じた目的にあった様々な音楽活動を実践し、音や音楽を五感で感じる中で、それらが幼児の心身の発達に関係することを学ぶ。また、発達に合った遊びを学生自らが展開する中で、子どもの主体的な表現を促す手法を習得する。さらにその表現に必要なコード理論、音楽理論、幼児の発達についての知識を修得し、0歳から6歳までの子どもの心身の発達の一助となる音楽遊びについての様々な知識と技能を体得する。授業形態は演習とする。	

専門科目	造形表現演習	写真の飾り貼り作品と幼児が楽しめる仕掛けのあるパネルシアターを製作し、実際に演じる機会を持つ。作品を丁寧に美しく仕上げ、材料道具の扱いを体験的に学ぶ。製作を通してバランス感覚や構成能力、色彩を効果的に使う能力を含むデザインの能力、創造的な技能を高める。これらの能力は視覚教材作成やプレゼンテーション用スライド作成、ポスター・チラシ製作等に役立つものである。授業形態は演習とする。		
	幼児体育演習	子どもの発育発達と運動機能に関する知識について理解し、遊びの本質の理解のもとに、伝統的な遊びによる身体表現活動を実践する。また、新たな遊びの創造による身体表現活動を実践する。身体表現活動の指導の展開を学ぶ。授業形態は、演習とする。		
専門教育分野	実習科目	教育実習指導	教育実習Ⅰ(小学校)、教育実習Ⅰ(幼稚園)・教育実習Ⅱ(幼稚園)にあたって「教育実習の意義と目的、留意すべき事項」について指導する。小学校に関しては小学校教員経験者・教育学担当教員により「児童の実態」「小学校教育における現代的課題」などの講話および「小学校教科指導の実際」など実践的な側面での指導を行う。幼稚園に関しては幼稚園教諭経験者・教育学担当教員による「幼児の実態」「幼児教育における現代的課題」「幼小連携の視点」等の講話を行う。 また、教育実習全般に関わる講話「教育実習の心構えと留意事項」「学級経営と学習指導」等も実施する。 実習終了後には作成した指導案や実習記録簿を参考に体験を発表し、反省点を明らかにする。	
		教育実習Ⅰ(小学校)	教育実習Ⅰ(小学校)は小幼コースの学生が履修する。4週間の教育実習を通し、児童理解を深め、体験的総合的に小学校教諭の職務を知る。また学習指導案の作成、実際の授業体験により、教科の適切な指導方法を体得し、実践的な指導力を培う。更に子どもの個性や生活環境を踏まえた学級経営の実際を学ぶ。地域との連携にも注目し、保護者や地域の人々との連携の在り方を知る。	
	教育実習Ⅰ(幼稚園)	2週間の教育実習を通し、幼児理解を深め、体験的総合的に幼稚園教諭の職務を知る。また保育指導案の作成、実際の保育体験により、保育の適切な指導方法を体得し、実践的な指導力を培う。更に幼児の個性や生活環境を踏まえた学級経営の実際を学ぶ。地域との連携にも注目し、保護者や地域の人々との連携の在り方を知る。		
	教育実習Ⅱ(幼稚園)	2週間の幼稚園での教育実習を通し、更に幼児理解を深め、保育内容・保育環境・保育者支援等、幼稚園教諭の職務をより深く学ぶ。また学習指導案の作成、保育体験を重ねることで、より適切な保育方法を身に付け、実践的な指導力を深める。小幼コースの学生は教育実習Ⅰを振り返り、小学校と幼稚園の違いあるいは共通点を見出し、幼小連携の視点を得る。幼保コースの学生はさらなる実践力を付けるための応用的実習である。		
	保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義や目的を理解することを目的に事前事後指導として実施する。実習に際して、事前に保育所実習や児童福祉施設実習の内容と課題を明確にし、実習で学ぶ上での施設の意義や役割理解、人権擁護等についての施設職員に求められる倫理や専門性などの留意事項を学ぶ。保育実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。		

専門教育分野	実習科目	保育実習 I a	2週間の実習を通して、保育所(園)の役割や機能、子ども理解、保育内容・保育環境、保育者支援等を理解する。また、観察や援助を通して保育計画、保育課程、日案の立て方、実習日誌や保育士としての心構えや保育技術及び保育士の役割と職業倫理について学ぶ。授業形態は、実習とする。	
		保育実習 I b	社会福祉施設等の現場において10日間の実習を行い、福祉施設等の役割や機能を理解する。また、利用者と日課、生活を共にするなかで、観察や援助を通して子ども理解、養護内容、生活環境、保護者支援等の実際を学ぶ。更に、実践を通して、援助計画、観察と記録及び自己評価等について具体的に理解するとともに、専門職としての保育士の役割と意識等を実践的に理解する。授業形態は実習とする。	
		保育実習指導 II	保育実習 I (保育所)を通して学び、得た知識や必要とされる技術等について振り返り、保育実習 II に向けての保育実習の意義と目的を理解し、保育について実践や事例を通して、保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育について総合的に学ぶ。また、保育実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
		保育実習 II	保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、子どもの観察や関る視点を明確にする。既習の教科や保育所実習 I での課題を踏まえ、子どもに応じた適切なかわりを明確にする。また、保育を担当し、研究授業を行うことで保育での実践力を高め、保育者支援について積極的に学び、保育士としての総合的な教育実践力を培う。	
		保育実習指導 III	保育実習 I b(児童福祉施設等)の実習を通して得た知識や必要とされる技術等について振り返り、施設の役割、機能についてより深く学ぶとともに、多様な業務と職業倫理、専門職との連携等、施設における支援の実際について、実践や事例を通して理解し、施設保育士として求められる専門性を総合的に学ぶ。また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、児童福祉施設における保育に対する課題や認識を明確にする	
		保育実習 III	保育実習 I bで学んだ児童福祉施設等の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。特に、家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深め、保護者支援、家庭支援のための知識、利用者支援技術を養い、保育士の多様な業務理解と専門性と職業倫理について理解する。	
専門教育分野	実習科目	教職実践演習(幼・小)	本授業では、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項について、教員として最低限度の資質・能力を身に付けているかどうかを確認していく。また、学校側の視点や意見を反映させるため、学校現場経験者による講話等を取り入れる。「履修カルテ」を参照し、個別に補完的な指導を行う。授業形態は、演習とする。 (③ 菅 邦男、 ④ 岩橋法雄)	共同

専門教育分野	実習科目	保育実践演習	<p>こどもの保育・教育に携わる人材として、保育士に求められる使命感・責任感、社会性・対人関係能力、保護者支援や障害児療育、乳幼児理解等、保育に係る知識・能力の向上と課題に対して効果的に取り組む態度を育成する。授業は、本学教員が中心となって演習方式で実施するが、模擬保育などの具体的な保育実践ワークの際は実技系の担当教員がそれぞれの専門とする分野で実践的な内容で実施する。演習は、保育実習を通しての課題等の共有化やテーマを立ててのグループ研究に取り組み、発表やレポート作成を行う等、保育現場で必要とされる人材としての専門性を育成する。授業形態は、演習とする。</p> <p>(⑧ 守川美輪, ⑩ 片野郁子)</p>	共同
		介護等体験	<p>障害児(者)支援施設(知的, 身体障害), 特別養護老人施設の社会福祉施設で, 5日間の体験活動を行い, 利用者の障害特性や高齢者の理解を進める。また特別支援学校(知的, 肢体, 盲・聾の養護学校)での2日間の授業や行事参加活動を通して, 生徒との交流を深め, 障害特性の理解や対人援助方法について学ぶ。</p>	
	卒業論文	卒業論文	<p>大学教育の総まとめとして、各学生は自己研究の専門分野に応じた研究課題を設定する。設定テーマに即した研究を行い、卒業論文として年度末に完成する。指導教員は、各学生の研究課題に即して、学問的な問題把握を指導し、文献や関連する研究紀要、資料等を提示し支援する。解読の仕方、英訳の場合の要約、論文の書き方など技術的な側面もきめ細かに指導する。</p> <p>学生は、卒業論文の構想を4年次当初にまとめておくこととする。</p> <p>(① 福田亘博, ② 日高英幸, ③ 菅邦男, ④ 岩橋法雄, ⑤ 田中幸子, ⑥ 嶋政弘, ⑦ 野崎秀正, ⑧ 黒木國泰, ⑨ 守川美輪, ⑩ 宮本直樹, ⑫ イアン スタンリー)</p>	共同